

### 北海道衛星 北京のフェア出展

ハイパースペクトルカメラ、鮮度センサー

## 開発製品に高い関心

来年4月に「市場徐々に開拓を」  
本格販売へ

10月下旬、中国・北京市で開かれた農業商談フェアに、宇宙ビジネスを目指すベンチャー企業、北海道衛星(本社大樹町、社長 佐藤新・北海道工業大助教授)が開発した「ハイパースペクトルカメラ」「鮮度センサー」が出品され、反響を呼んだ。この製品は、国内では来年4月から本格販売される予定で、佐藤社長は「宇宙ビジネスの足掛かりになった」と話している。(平野明)



「鮮度センサー」を持つ佐藤社長(左)とフェアの出展を担当した道工大大学院生の上野宗一郎さん。右手前にあるのが「ハイパースペクトルカメラ」

ハイパースペクトルカメラ 光のスペクトル(色彩)を分析する特殊カメラで、人工衛星に搭載し、農作物の生育状況や土壌の調査などに活用でき、農産物の鮮度、偽札などの異物検査などでもできる。国内企業による商業向けのスペクトルカメラの開発は北海道衛星が初めて。価格は300万円。

鮮度センサー ハイパースペクトルカメラの原理を活用し、野菜の葉緑素が放つスペクトルを分析し、葉緑素の活性度を数字で表示する。価格は2万—3万円を予定。スーパーの仕入れなどでの需要を見込んでいる。10月下旬に特許申請した。

農業商談フェアは中国の農業省が主催し、10月17日から21日まで開か

れ、13万回から約600社が参加した。佐藤社長が理事長を務めるNPO法人・宇宙空間産業研究会が出品した。「ハイパースペクトルカメラ」は人工衛星から農作物の生育状況などを把握。「鮮度センサー」は緑葉野菜の鮮度を調べる。

フェアには期間中、約3000人が訪れ、4社の担当から名刺を受け取り、地元の新聞社がカメラ、センサーの優

れた機能を紹介する記事掲載した。食品加工、緑化事業、不動産などの約30社から「輸出農産物の品質検査に使いたい」との理由で「商標を取り

扱いたい」との申し出があった。ハイパースペクトルカメラの一般市場でのPRは今回初めて。「予想市場での反応を探りたかった。カメラ、センサーの市場を徐々に開拓し、カメラの衛星搭載利用につなげたい」としている。